

# 水稻営農技術情報（第2号）～JA富山市米品質向上生産運動展開中～

**目指せ！うるち玄米1等米比率90%以上！！**

- 苗が軟弱徒長にならないよう、育苗ハウスの換気を徹底
- 高温登熟を回避するため、コシヒカリの田植えは5/15を中心に実施
- 基肥量は、**土壌条件に応じて調整**し、落下量を確認
- 除草効果を高めるために**除草剤は遅れずに適正量を散布**



出穂後の高温を回避すれば、白未熟粒の発生が減少！

## 1 硬化期の育苗管理

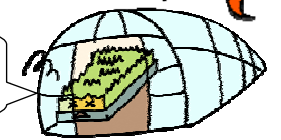
- ・ハウス内温度は、25℃以下となるよう換気を徹底しましょう。特に、晴天日は早朝から換気しましょう。
- ・田植え1週間前からは、夜間もハウスを開けましょう。
- ・かん水は朝1回を原則とし、床土の乾きに応じてかん水しましょう。

【育苗期間中の温度管理の目安】

ステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2～3日	13～15日
温度	昼	25℃以下	
	夜	10℃以上	



日射があれば搬出直後から換気の徹底を！



## 2 本田準備

- ・田面に高低差があると、①田植機の植付精度が低下する、②除草剤の効果が劣る、③水管理がスムーズに行えない、等の問題が生じます。**耕起・代かきは丁寧に行い、ほ場の均平に努めましょう。**
- ・ヒエ等の雑草の発生を抑えるために、**代かきは、田植予定日の3～5日前に実施**しましょう。
- ・代かきは少なめの水で行い、稲わらや雑草等をすき込みましょう。また、代かき後は自然減水とし、濁り水をほ場外に流さないようにしましょう。

## 3 田植え

★**栽植密度70株/坪、植付本数3～4本、植付深さ3cm程度**となるように田植機を調整しましょう。  
栽植密度をしっかりと確保することで、穂数が確保しやすくなり、収量・品質が安定します。

### 【基肥量】

- ・基肥量は、土壌に応じた施肥基準を遵守しましょう。
- ・田植時は落下量を確認し、必要に応じて開度を調整しましょう。

### <肥効調節型(一発)>

品種名	肥料名	基肥量(kg/10a)		
		砂質浅耕土	砂壤土	壤土
コシヒカリ	Jコートコシヒカリ1号	35	30	25
	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ1号	45	40	35
てんたかく81	Jコート早生専用	45	43	40
てんこもり	LPss 晩生専用	45	43	40
ゆうだい21	ゆうだい 21 専用	40	35	30

### <分 施>

品種名	肥料名	基肥量(kg/10a)		
		砂質浅耕田	砂壤土乾田	壤土乾田
コシヒカリ	基肥 206	35	30	25
てんたかく81		45	40	35
てんこもり		45	40	35

※全層施肥の場合は、基肥で5kg/10a増量、早期追肥(田植後7日後)を10kg/10a程度施用しましょう。

## 【育苗箱施薬】

- 育苗箱施薬を施用する場合は、規定量を確実に散布しましょう。

使用農薬	散布量	施薬時期	対象病害虫	使用回数
ヨーバルプライムEV箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)～移植当日	いもち病、白葉枯病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ	1回
ルーチンアドスピノ箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)～移植当日	いもち病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ	1回

※高密度に播種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて薬剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当たりの薬量を50～100gまでの範囲で調整します

## 4 水管理

- 田植直後は、水深5cm程度のやや深水とし、苗を保護しましょう。
- 活着後は、初期生育の促進のため水深3cm程度の浅水とし、早朝入水・日中止水で田水温が高くなるように努めましょう。

## 5 除草剤散布

<除草剤施用時期の目安>

	田植	田植後日数																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
初・中期一発剤体系																		
◎雑草が多いほ場 初期剤+初・中期一発剤体系																		

雑草が残った場合は、中期剤または後期剤を散布

- 使用薬剤の登録内容を確認し、適切に使用しましょう。
- 代かき後に気温が高いと、雑草の発生・生育が早まるので、遅れずに散布しましょう。
- 散布後5日間は湛水状態を保ち、田面を露出させないようにしましょう。
- 散布後7日間は、止水管理(落水やかけ流しをしない)とし、水田外への流亡を防ぎましょう。
- 田植同時散布機を使用する場合は、薬剤によって開度が異なるので、散布機を調整しましょう。

## 6 斑点米カメムシ類発生防止対策

カメムシのエサとなるイネ科雑草が出穂をしないよう、畦畔等の草刈りや除草剤の散布を行い、カメムシ類が発生・増殖しにくい環境づくりに取り組みましょう。

※刈り取った雑草は、用水路に流さず、適切に処理しましょう！

### 春の農作業安全確認運動 令和6年3月1日～5月31日 農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底しましょう

春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。  
農場や用水路の危険箇所の把握・改善や余裕をもった作業計画など、  
事故を未然に防止する対策を徹底しましょう。

